



Title	「リーンハルト・ショイベルの英雄本」に関する諸問題
Author(s)	寺田, 龍男
Issue Date	2012-12-15
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/50949
Type	conference presentation
Note	北海道ドイツ文学会第75回研究発表会. 2012年12月15日. 北海道大学.
File Information	LienhartScheubels20121215c.pdf



[Instructions for use](#)

2012年12月15日（於北海道大学）
北海道ドイツ文学会 第75回研究発表会

「リーンハルト・ショイベルの英雄本」に関する諸問題

寺田龍男

1. 「リーンハルト・ショイベルの英雄本」(Lienhart Scheubels Heldenbuch) とは何か
 - 成立：1480/90年頃（紙写本） 現在オーストリア国立図書館蔵（Codex 15478）
 - リーンハルト・ショイベルという人物が所有していたことを示す書き込みあり。ショイベルがニュルンベルクにいたことはほぼ確実。
 - 15世紀に比較的多く書かれたり印刷されたりした「英雄本」のひとつ。
 - 内容
 - ①『ヴィルギナール』（Virginal 写本V12）
 - ②『アンテロイ』（Anteloy）
 - ③『オルトニート』（Ortnit 写本y）
 - ④『ヴォルフディートリヒ』（Wolfdietrich 写本y）
 - ⑤『ニーベルンゲンの歌』（Das Nibelungenlied 写本k）前半「ゼイフリートとクレンヒルトの結婚」
 - ⑥『ニーベルンゲンの歌』後半「エツェルとクレンヒルトの結婚」
 - ⑦『ロレンゲル』（Lorenge）
 - 特徴
 - ①すべての作品が同一人物によって「書かれて」いる。
 - ②一冊にまとめられる前は、すべての作品が単独の写本として読まれていた。そののちまず上記③④⑤⑥が通し番号をつけて結び付けられ、さらに他の作品が加わった。（あとから加えられたものには③-⑥に対応する通し番号がない。）
 - ③ジャンルとしては「英雄叙事詩」に属するものが多い（①③④⑤⑥）が、②と⑦は異なる。しかし②の詩形（Hildebrandston）は英雄叙事詩の典型。⑦はテーマが「婚姻」で、他作品と共通。
 - ④『ニーベルンゲンの歌』は、完本であるにもかかわらず『哀歌』（Die Klage）を伴わない珍しい例の一つ。
2. 課題
 - 所有者ショイベルはこの英雄本の「製作委託者」だったか？写本の執筆・改変もおこなったか？あるいは「購入者」か？
 - 現在のところ推測の域を出ない。しかしBearbeiterだったと見る研究者が多い。
 - 現在の通説では成立地はニュルンベルク。しかし疑問の余地あり。言語はBairisch-Österreichisch。
 - 古文書学・言語学の面からの再検討が必要。
 - 現在『ヴィルギナール』の新しい校訂版の編纂が進められている。ここで対象とする英雄本にはそのV12写本が収められている。これを英雄本全体の枠で考察する、すなわち他の作品と比較することで何らかの特徴を見出すことができるかもしれない。
3. 研究の試み — 語彙・テーマ
 3. 1. 「勇士」を表わす語彙（helt, degen, recke, wîgant）
 - ①作品ごとに一定の傾向はある。しかし『ニーベルンゲンの歌』（1200年頃成立）の写本Bなど、13世紀に書かれた写本の分布とは大きく異なる。具体的には、deggenとreckeの出現頻度が低く、逆にもっとも「古態」とされるwîgantが多く作品で頻出する。
 - ②さらにこのwîgantは、多くの場合「勇敢な」を意味するkûn / kunまたはその強調（誇張）形であるwunderkûn / -kunと結びついている。『ヴィルギナール』の他の主要写本（V10, V11）ではこうした例はみられない。
 - 表1 古態語wîgantの用例数、およびこれと結びつく形容詞（省略）
これにより、各作品におけるwîgantの使用頻度、および形容詞wunderkûn, kûnと結びつく傾向が高いことは明らか。そこでwunderの使用例を見る。

○表2 『ヴィルギナール』主要3写本におけるwunderとこれにより強調される形容詞の例数(省略)
「シヨイベルの英雄本」に掲載されたV12のみに見られる傾向が確認できる。次に他の作品の傾向を見る。

○表3 各作品におけるwunderおよびこれを冠する形容詞の例数と1000行当たりの頻度数(省略)

3. 2. 宗教関連語彙(1)

○表4 「神」「マリーア」・「キリスト」・「悪魔」(2種)

	<i>got</i>	<i>Maria</i>	<i>Christ</i>	<i>tiufel</i>	<i>vâlant(in)</i>
Virginal (V12) (11.193 Verse: 866 Str. – 65 Verse)	163 (8,57)	7 (0,62)	12 (1,07)	32 (2,85)	7 (0,62)
König Anteloy (264 Verse: 33 Str.)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
Ortnit (y) (3.544 Verse: 443 Str.)	55 (15,51)	0 (0)	7 (1,97)	8 (2,25)	0 (0)
Wolfdietrich (y) (17.058 Verse: 2.131 Str. + 10 Verse)	264 (15,47)	1 (0,06)	42 (2,46)	43 (2,52)	19 (1,11)
Nibelungenlied (k) (19.536 Verse: 2.442 Str.)	128 (6,55)	0 (0)	6 (0,30)	10 (0,51)	7 (0,35)
Lorengel (2.438 Verse)	103 (42,25)	4 (1,64)	1 (0,41)	0 (0)	0 (0)
Nibelungenlied (B) (19.008 Verse: 2.376 Str.)	79 (4,15)	0 (0)	1 (0,05)	12 (0,63)	3 (0,15)

(参考のため『ニーベルンゲンの歌』の写本B(最下列)を付す)

3. 3. 宗教関連語彙(2) → 「聖○○」が頻出

「聖ヨハネ」(洗礼者か使徒か不明) *sant Johannes*: 『ヴィルギナール』1回、『ヴォルフディートリヒ』2回、『ニーベルンゲンの歌』(k)6回、『ロレンゲル』1回。

「聖ゲオルク」 *sant Jörg*: 『ヴォルフディートリヒ』11回。

「聖ヤコブ」(旧約『創世記』ではなく使徒か) *sant Jacob*: 『ヴォルフディートリヒ』1回。

「聖パングラツィウス」 *sant Pangraczen*: 『ヴォルフディートリヒ』1回。

「聖クリスティーナ」 *sant Crystine*: 『ヴォルフディートリヒ』1回。

→ この現象をどう解釈すべきか。

多くの作品で「聖ヨハネ」が言及されていることから、写本の筆者(ないし改作者)に何らかの意図があった可能性。

→ 参考①「ドレスデン英雄本」(Dresdener Heldenbuch, 1472年)では聖者の名は一度も出ない。キリスト教関連でもAdam (1), Jesus Krist (3), Krist (4), Maria (4)が出るのみ。

参考②「シュトラースブルク英雄本」(Straßburger Heldenbuch, 1476年)でも「聖ヨハネ」が2度言及される以外に例なし。キリスト教関連ではAbraham (1), Absalom (1), Adam (2), Jesus (2), Krist (12), Maria (2)。

4. 展望

①写本の筆者が書写の過程で独自色を出した可能性は高い。語野やテーマによってはその人物の志向性を見つけ出すことが可能と思われる。実際、いくつかの語野では「個性」たりうる傾向が認められる。

②聖者の名前が比較的多くあらわれることはこの写本の大きな特徴の一つである。今後さまざまな文献と比較することにより、本書が成立した時代的・地域的特性をうかがえる可能性がある。

5. 関連文献

- Werner Hoffmann: Spätmittelalterliche Bearbeitung des Nibelungenliedes in Lienhart Scheubels Heldenbuch. In: Germanisch-Romanische Monatsschrift N. F. 29 (1979), S. 129–145.
- Gisela Kornrumpf: Strophik im Zeitalter der Prosa: Deutsche Heldendichtung im ausgehenden Mittelalter. In: Literatur und Laienbildung im Spätmittelalter und in der Reformationszeit. Symposium Wolfenbüttel 1981. Hrsg. von Ludger Grenzmann/Karl Stackmann. Stuttgart (Metzler) 1984, S. 316–340.
- Dies.: 'Lienhart Scheubels Heldenbuch'. In: Killy Literaturlexikon. Autoren und Werke des deutschsprachigen Kulturraumes. 2., vollständig überarbeitete Auflage. Hrsg. von Wilhelm Kühlmann et al. Bd. 10. Berlin/New York (de Gruyter) 2011, S. 321f.
- Norbert H. Ott: 'Virginal'. In: Katalog der deutschsprachigen illustrierten Handschriften des Mittelalters. Begonnen von Hella Frühmorgen-Voss. Fortgeführt von Norbert H. Ott mit Ulrike Bodemann/Gisela Fischer-Heetfeld. München (Verlag der Bayerischen Akademie der Wissenschaften) Bd. 4/1 2008. S. 78–83, hier S. 83.
- Margarete Springeth: Die Nibelungenlied-Bearbeitung der Wiener Piaristenhandschrift (Lienhart Scheubels Heldenbuch: Hs k). Transkription und Untersuchungen. Göppingen (Kümmerle) 2007 (Göppinger Arbeiten zur Germanistik 660).
- Terada Tatsuo (寺田龍男): Kriegerbezeichnungen in der Dietrichepik. 『独語独文学研究年報』 32 (2005), S. 57–79.
- Ders.: Der Wortschatz bei ›Virginal‹ – Versionen (V10), (V11) und (V12) –. Teil 1: Kriegerbezeichnungen. 『独語独文学研究年報』 36 (2009), S. 62–79.
- Der: Der Wortschatz bei ›Virginal‹ – Versionen (V10), (V11) und (V12) –. Teil 2: Heiden und außer- sowie übernatürliche Wesen. 『メディア・コミュニケーション研究』 58 (2010), S. 137–152.
- Ders.: Der Wortschatz bei ›Virginal‹ – Versionen (V10), (V11) und (V12) –. Teil 3: Topoi. 『メディア・コミュニケーション研究』 59 (2010), S. 77–94.
- Ders.: Der Wortschatz in *Lienhart Scheubels Heldenbuch*. (印刷中)



この発表は、文部科学省科学研究費補助金（基盤研究C 課題番号23520358「中世ドイツ文学の発信型研究の試み」）の助成を受けた研究に基づくものです。

発表の際、数多くの方々から建設的かつ貴重なご質問・ご意見をいただきました。ここにあらためて御礼申し上げます。なおHUSCAP掲載にあたり、必要最小限の修正と加筆を施しました。また表1–3は、現在印刷中の論文に掲載しているため、ここでは表示を差し控えました。さらに質疑の際にいただいたご指摘への私なりの回答を、「4. 展望」の形で補足しました。